声を大にして言いたい！

「喉元（のどもと）過ぎれば、熱さ忘れる」この言葉を知っていますか。熱いものを口に入れたときに、口の中では熱さを感じても、飲み込んで喉を通過していくと、その熱さを忘れてしまうということです。旺文社の国語辞典には、「苦しみも、そのときが過ぎればすぐに忘れてしまうことのたとえ」と説明してあります。人間の弱さを示した言葉です。

昨年度末から続いた三ヶ月の休校。その影響で生徒の皆さんにも、大きな影響が及びました。時間数の確保ができない授業、やむを得ず中止や変更になった行事、いろいろな制約や制限が生まれた日常生活……皆さんにはのんびりできることを歓迎する気もちも、正直言ってあったでしょう。反面、長く休みが続けば、その分失うものがあることを、皆さんはわかったことでしょう。

だからこそ、二度と休校という状況をつくってはいけません。皆さんの周りには、コロナ感染症がすぐそこまで迫ってきているという緊迫した状況が、今はないかもしれません。しかし、東京では、七月に入って六日連続で三桁の感染者が出ています。昨日に至っては、これまでの最高の二百二十四人の感染が判明しました。

そのうち約半数の人の感染経路が判明していません。感染経路がわからないということは、いつ、どこで他の人が感染するかわからないということです。交通の発達している日本。新幹線や飛行機でその日のうちに感染者が日本中を駆け巡ることは十分可能です。岐阜県内においても、昨日二人の新たな感染が判明しています。ウイルスがいつ私たちを襲っても、不思議はない状況です。

最近の授業や休み時間の皆さんの様子を見ていると、私は不安になります。コロナウイルス感染症の恐怖が、皆さんの喉元を通過してしまったのではないかと……。

絶対感染してはいけません。感染させてはいけません。生徒も職員も今一度意識を高め、新型コロナウイルス感染症予防に全力で取り組むべきだと、私は声を大にして言いたいと思います。

日本語には「勝って兜（かぶと）の緒（お）を締めよ」という言葉もあります。ウイルスに勝って、さらに気もちを引き締め、今年度を乗り切ろうではありませんか！

（七月十日　記）